

世界はひとつ

(公財) 岐阜県国際交流センター (略称 GIC) 発行
国際交流・多文化共生情報誌
GIFU INTERNATIONAL CENTER

2018年11月 143号

© 岐阜県 清流の国ぎふ・ミナモト # 0195



岐阜・リトアニア交流事業「リトアニア体験フェスタ」を開催しました

岐阜県とリトアニアは、「命のビザ」とよばれた人道支援で知られる元駐リトアニア領事代理・杉原千畝(岐阜県出身)の功績を縁に、文化や観光など様々な分野で交流を進めています。

今回、県民の皆様のリトアニアに親しんでもらうため、岐阜・リトアニア交流事業「リトアニアNOW」の一環として、「リトアニア体験フェスタ」を開催しました。



リトアニア共和国

リトアニアはヨーロッパ北東部、バルト三国のひとつで、日本の東北地方ほどの大きさがあります。

言語はリトアニア語で、多くの森と湖がある自然豊かな国です。

リトアニア体験フェスタ

● 食文化体験



トラカイの伝統食「キビナイ」



全員で乾杯!

7月31日(火)に岐阜県図書館(岐阜市)にて、リトアニアの食文化体験を行いました。

講師に料理研究家・フォトエッセイストの口尾麻美氏をお招きし、実際に旅をして体験したリトアニアの素朴な暮らしや工芸品、食べ物などについてお話しいただきました。

そのあと講師にご用意いただいたハーブティーと、パイ生地を豚肉を詰めた伝統食「キビナイ」を美食。講師から、「乾杯という言葉は、イスラエリカーター(イスラエルの政治家)の名言です」と説明を受けて、集まった参加者たちはハーブティーで乾杯し、初めて体験する食べ物の味や香りを楽しみました。

● 伝統工芸品「ソダス」づくり



作成したソダス



基本の多面体と星のモチーフを作成

8月5日(日)・6日(月)にOKBふれあい会館(岐阜市)にて、駐日リトアニア共和国大使館の本多桃子氏を講師にお招きし、ソダスづくり体験を行いました。

ソダスはリトアニアの主食、黒パンの原料であるライ麦の茎に糸を通し、鳥や天使、幾何学の立体を組み合わせて作られる飾りで、古くから、邪気を払い幸せを呼び込む「聖なる飾り(お守り)」として一般家庭にて飾られています。

参加者からは「ソダスづくりを通じて新しい国を知ることができた」「リトアニアについて興味湧いた」などの声をいただき、リトアニアの文化に触れてもらうよい機会となりました。

パネル展



「森と水の国」リトアニアと「木の国、清流の国」岐阜県。地理的な特徴や育ててきた文化に共通点のあるリトアニアの観光、世界遺産、文化について映像やパネルで紹介するリトアニアパネル展を岐阜県図書館ロビーにて開催しました。

CONTENTS - 目次 -

- 岐阜県と中国の交流 P2
- 国際交流員退任のご挨拶 P3
- 新しい国際交流員からのご挨拶
- 国際交流員活動報告 P4
- わたしの国の流行

- センターの事業報告 P5
- ハローギフ・ハローワールド2018
- 外国人相談員等ネットワーク会議
- 外国人住民向けの生活情報 P6
- 日系四世受入制度
- インフルエンザ対策

- Close up! ASFIL GIFUの活動 ... P7
- JICA岐阜県デスクからのお知らせ
- インフォメーション P8
- センターからのお知らせなど

ぎふけん ちゅうごく こうりゅう 岐阜県と中国の交流

今年（ことし）は日中平和条約締結40周年であり、岐阜県と江西省友好提携30周年でもあります。これをきっかけに、岐阜県と中国、江西省との交流の歩みを振り返ります。

●岐阜の名は中国から由来しています

織田信長は、当時、城下の井之口を岐阜と名付け、日本統一の拠点として全国にその名を広めました。「岐」は昔、中国の周の文王が天下統一の拠点とした縁起の良い地名の陝西省岐山の「岐」で、「阜」は、学問の祖である孔子の生まれた地、山東省曲阜の「阜」です。つまり、岐阜という名前に、太平と学問の地であれという織田信長の熱い願いが込められています。日本の都道府県名が中国から由来しているのは、岐阜県だけです。

●岐阜市と杭州市の友好交流は日中国交正常化より早くスタートしました

1962年、山田丈夫岐阜新聞（当時岐阜日日新聞）社長を団長とする訪問団が杭州市を訪ねました。松尾吾策岐阜市長と王子達杭州市長の平和と友好の碑文が交換され、「中日両国人民世



世代友好下去（中日両国人民は子々孫々にわたって仲良くやっていきましょう）」と「日中不再戦（日中戦争）の石碑が1963年に両地に建立されました。岐阜公園の碑は6月2日に、杭州市柳浪聞鶯公園の碑は12月15日に、除幕式が行われました。

●中国と岐阜県及び県内市町との友好提携状況

県内	提携先	提携年月
岐阜市	浙江省 杭州市	1979年 2月
瑞浪市	湖南省 醴陵市	1987年 1月
岐阜県	江西省	1988年 6月
大垣市	河北省 邯鄲市	1988年 10月
大野町	湖南省 邵陽市	1996年 10月
関市	湖北省 黄石市	1997年 12月
高山市	雲南省 麗江市	2002年 3月
安八町	江西省 豊城市	2007年 8月

●岐阜県と江西省との交流の歩み

◆トップレベルの相互訪問

江西省と岐阜県との友好交流は、1984年、日中友好岐阜県議員連盟が初めて江西省を訪問したことに始まり、1988年6月21日、「友好県省提携に関する協定書」が締結され、5周年、10周年、20周年、25周年と

江西省
総面積：16.69万km²
(岐阜県の約16倍)
人口：4622.1万人
(岐阜県の約23倍)
省都：南昌

いう節目の年には、相互訪問とイベントが行われました。今年（ことし）は30周年にあたり、9月に毛偉明常務副省長を団長とする江西省

政府代表団が岐阜を訪問され、古田知事を団長とする岐阜県代表団も江西省を訪問する予定です。友好交流の新たなページが始まろうとしています。



◆農業、林業分野での交流

農業分野では、岐阜県園芸特産振興会花き部会と江西省花卉協会を窓口として、技術の交流、研修生受入などが行われています。林業分野では、江西省での植林活動や記念植樹が実施されています。

◆文化交流

江西省雑技団の公演や二胡コンサートが開催されました。学生訪問団の相互派遣が行われ、江西省科技学院と中日本自動車短期大学との交流など学校間の提携も行われています。スポーツ分野では、江西省と岐阜県が卓球の合同チームを組み交流大会に参加しています。

◆草の根交流

岐阜県日本中国友好協会と岐阜日中協会も活発に草の根交流を行っています。岐阜県日本中国友好協会は2008年に「和平竜」(青銅製の竜頭像)を江西省人民対外友好協会に、岐阜日中協会は2013年に「輝く芽」(石像)を岐阜県庁にそれぞれ贈呈しました。

◆江西省への企業進出

(株)ロックス、片山縫製(株)、(株)アイコットリョーワ、清和陶器(株)が江西省内に現地法人を設立し、それぞれ、衣類、タイル、陶磁器を生産しています。

◆人材の受入

江西省からの海外技術研修員を90名、江西省出身の国際交流員を14名受け入れました。2006～2008年に国際交流員を務めた肖燕さんからは「友好提携20周年に、多数の記念事業に参加でき、微力ながら貢献できたことを光栄に思っています。岐阜の団体や個人の皆さんに色々お世話になったので、今は大学の先生として出会った日本の方々にできるだけ親切にして恩返しをしています。」というメッセージを、また、2016～2018年に国際交流員を務めた呉双さんからは「岐阜での仕事や生活の様々な体験を通し、たくさんの方々と友情を育むとにもすばらしい思い出を作ることができました。私にとって岐阜は第二の故郷のような存在です。岐阜のすばらしい友人の皆さんとの再会を期待しております。」というメッセージをいただきました。

セウギ国際交流員から退任のご挨拶

岐阜に初めて来たのは、下関で留学をしていた時の夏休みに、バックパックで日本中を回っていた時でした。高山と白川郷で過ごした時間の記憶が今でも残っています。その時に、日本人でさえ「何がある？」と質問をするこの岐阜県で働くことになるなんて想像もしませんでした。国際交流員として勤務していた3年間で沢山の発見を重ね、この質問に沢山の答えを集めました。今年の8月をもってこの職を退任することになっていますが、これからは、隣の愛知県に住むことになり、岐阜県に時々遊びに来るつもりなので、幸いに離れる寂しさから逃れることができます。

国際交流員としては、学校訪問、トルコ語講座、トルコ料理教室、伝統舞踊体験、伝統手芸教室などといった異文化理解活動を通じて、児童生徒の皆さんや県民の方々とは触れ合うことができました。自分の過去を振り返ると、将来に関わる決断に影響を与えた出会いが数多くありましたが、様々な交流の中で、私も誰かにとってそのような出会いの一つになれたのではないかと信じています。多くの方に会い、彼らの人生に小さな痕跡を残すことで人と人、国と国の交流の種をたくさん蒔いてきました。そしてこの3年間の経験を通じて日本社会についてより深く理解することができ、日本社会の変化とその対策について日々考えてきました。退任後もこれらの経験を生かし、これまで以上に日本の多文化共生社会の実現と異文化理解のために活動し続けたいです。

トルコと岐阜の繋がりがまだまだ薄く、トルコはなかなかイメージが湧かない国ですが、皆様は是非一度トルコに行って自分の目で見て欲しいです。きっと私が日本で経験した皆様の優しさと歓迎、驚きと感動を皆さんもそこで経験できます。このような経験はきっと両国の将来にも繋がります。Hoşçakalin (さようなら)。



多文化共生サロン「トルコの伝統手芸『イーネオヤ』体験」



中津川市の出雲福德神社にて

新しい国際交流員からのご挨拶

みなさん、はじめまして！リトアニアから来ましたヴァシレブスキー シモナです。高校のときから日本語が好きなので、大学で日本語を勉強しました。日本語は難しいですが、とても面白いと思います。大学時代に1年間東京で留学しました。そのとき日本人の友達もでき、日本の社会や文化も体験できました。日本がとても好きになりました。帰国後、数年間日本語の教師の仕事をしていましたが、もっとリトアニアと日本の関係に関する仕事をしなかったので、JETプログラムに申し込みました。岐阜県とリトアニアの共通点はたくさんあると思います。

一番知られているのは元駐リトアニア領事代理の杉原千畝さんです。その上、お互いの国々は自然が豊かで、地理的にも、岐阜県が日本の真ん中にあり、リトアニアもヨーロッパの地理学的な中心にあります。私は岐阜県についてまだわからないことがたくさんありますので、これから勉強したいと思います。国際交流員として、リトアニアと岐阜県の関係性を深めるためにみなさんと協力し、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



わたしの国の流行



イギリス

① “Binge-watching”: ドラマなどを一気に観ること

使用例: “I binge-watched the whole show in a weekend.”
 →「週末をかけてドラマの最初から最後まで一気に見た。」

「Binge」という単語は、もともと「浸す」という意味をもっていますが、20世紀後半に「binge-drinking」(お酒の一気飲み)や「binge-eating」(大食い)という言葉ができ、「binge」は「一気に大量」の意味で使われるようになりました。最近では、ストリーミング配信サービスでドラマの一話が終われば次のエピソードが自動的に流れ、永遠に終わらない映画のように見続けることが「binge-watching」(一気見)と言われるようになりました。2018年にオックスフォード英語辞典にも登録されました。

② “FOMO” (Fear Of Missing Out): 取り残されることに対する不安 (SNS依存症)

使用例: “I was exhausted from a busy week, but my FOMO took over and I went to hang out with my friends.”
 →「一週間中忙しくて疲れていたにもかかわらず、取り残されるのが不安で、結局、友達と遊びに行った。」

「FOMO」とは、SNS依存症から生まれた現象です。フェイスブックやツイッターで永遠に流れる情報や写真を見ることによって、周りの人が自分より楽しい生活をしているのではないかという不安を抱くことを意味しています。参加しないと決めたイベントの写真を見て後悔し、次からは行きたくなくても行くようにすることや、情報を見逃したくなく、とにかく常にSNSをチェックすることも「FOMO」に含まれています。



【写真提供: The DyslexicBook.com】

中国

ネットで交流の時、文字と同時にスタンプもよく使われています。中国で最も人気なスタンプは「顔を手で覆う」で、ネットユーザー7億6千万人が利用しているということです。このスタンプは現在、約7億人が利用するWeibo(ウェイボー・微博、TwitterのようなSNS)や約10億人が利用するWeChat(ウイチャット・微信、LINEのようなアプリ)に標準収録されています。

それは「どうしようもない」、「恥ずかしい」、「悪かった」、「参った」、「気まずい」などの感情を表しています。突っ込んだり、自分いじりの好きな若者に一気に人気を集め、あっという間に流行してきました。

使用例: 「王さんとの連絡を忘れたのよね?」
 「何を言っているのかさっぱりわからない。」



ブラジル

ブラジルでのインターネットの普及率はおよそ66%です。日本と比較するとそれほど高くないのですが、近年の流行はほぼインターネット上のものようです。ブラジル各地で政治危機が深刻化しているなか、陽気なブラジル、ジョークピアダ(piada)が大好きなブラジルではさまざまなテーマのインターネット・ミーム(meme)だけが日々拡散され続けています。

★ネット上で最近よく使われていることば

① Top

英語であるこの言葉Topは、いろいろな意味に訳せますが、基本的には「てっぺん」という意味があります。ブラジル人は「良い、最高、最高品質」のような意味で何かにに対して使います。少し前まで日本で流行った「神」という表現と同じような意味合いだと思えます。また、ポルトガル語の形容詞の絶対最上級の接尾辞-íssimoにつなげ、新しい単語topíssimoと言ったりすることもあります。

② Ranço

Ranço はもともとポルトガル語で油性食品が腐ったような悪臭がしたり、嫌な味がしたりするときを使う言葉ですが、今は何かもしくは他人の態度、行動、動作、発言に対する「反発、不快感、イライラな気持ち」を表す俗語として使われるようになりました。
 使用例: Tenho ranço de pessoas que falam alto em público.
 公の場で大声で話す人に反発を感じる。



センターの事業報告

外国人のど自慢大会で熱唱！「ハローギフ・ハローワールド2018」を開催しました

当センターが毎年、岐阜県国際交流団体協議会と協働で開催する国際交流イベント「ハローギフ・ハローワールド」は、本県に拠点を置く国際交流団体が中心となっており、日頃の活動や世界各国の文化を様々なパフォーマンスやブースで紹介し、多くの方に楽しみながら国際交流や異文化への理解を深めていただく一大イベントです。



梅雨晴れとなった6月16日の土曜日、第30回目となる「ハローギフ・ハローワールド2018」を今年も岐阜市の柳ヶ瀬商店街にある岐阜高島屋前わくわく広場とシネックスホールで賑やかに開催しました。

恒例のフラメンコやベリーダンスなど世界各国の踊りで幕を開けたわくわく広場のステージの前には、県内外から多くの方が集まり、独特のリズムに合わせたステップ、全身を使った流れるような動きや雰囲気を感じていただきました。続いて始まった今年のメインイベント、在日外国人の皆さんによるのど自慢大会では、アメリカ、ペルー、

インド、ネパール、スリランカ、フィリピン、ベトナム、中国、ロシアの9カ国から14組の参加があり、各参加者の皆さんが母国の歌や日本の歌を披露しました。気持ちを込めて熱唱する歌声に足を止めて聞き入る人も続出し、予選から大変な盛り上がりを見せました。また、アルゼンチン生まれの日系人演歌歌手・大城バネサさんのライブも行われ、会場の歓声は一層熱く、大きく盛り上がりました。

シネックスホールの各ブースでは、欧米やアジア、アフリカ、オセアニアなど様々な国と草の根交流を図る県内の国際交流団体が、各国の文化や団体活動を紹介しました。特産品の試食や民芸品の販売、民族衣装の着付け体験、外国語での名刺づくりは今年も大好評で、来場者の皆さん同士の交流を深めながら、世界各国の文化の違いを楽しく体験していただくことができました。



外国人相談員等ネットワーク会議

県内在住外国人数は5万人を超え、定住する人々も増えていきます。それに伴い困りごと等の相談も多岐にわたります。そこで当センターでは外国人住民を取り巻く様々な相談等に対応し、各外国人相談員の連携を図るよう横のネットワークを構築するため、外国人相談員等ネットワーク会議を発足しました。

外国人相談員とは、主に市役所等の窓口で外国語を駆使し外国人住民の行政手続きをサポートする人達のことをいいます。第二回目となる会議では可児市のフレビアに講師の藤川純子先生（四日市市立笹川西小学校教諭－JICA 日系社会青年ボランティアOG）をお招きして外国籍の子どもの発達障がいに関して研修を行いました。

まず初めに講義をいただき、外国籍の子どもの発達障がいに関して基礎知識を学びました。外国籍の子どもの学習においてつまづいている時、それが言語の問題なのか障がいの判断するのは容易ではないが、大切なことは児童が持っている特性を見極め、その子に合った支援方法を考えるということ、また、行政、多文化ソーシャルワーカー、キーパーソン等、関係各所が連携した支援体制づくりの重要性を説かれていました。

その後は、架空の設定の児童に対しどのように支援していくのかを考えるグループワークを行いました。学校、先生、両親、児童、行政、それぞれに対しアプローチする支援策が多く発案され、関係各所が連携していくことでよりよい支援が行えるということを学びました。

今回の研修では、相談員が直面している問題や困りごとを取り上げ、悩みや情報を共有し話し合うことで、横のつながりが徐々に強くなっていくことを感じることができました。こうした会議を通じて日々スキルアップをしている、各地域の外国人相談員の活躍にご期待ください！



日系四世の更なる受入制度が始まり、
日系四世の方が来日しやすくなります

2018年7月1日
からスタート

制度の目的

- この制度は、日系四世の方に、日系四世受入れサポーターの方から支援を受けながら、日本文化を習得する活動等を通じて日本に対する理解や関心を深めてもらい、日本と現地日系社会との架け橋になっていただくことを目的とした制度です。
- 所定の要件を満たせば、通算して最長5年間滞在していただくことが可能です。
- 帰国後は、日本と現地日系社会との架け橋としてご活躍いただくことが期待されます。

制度の対象となる日系四世の方

下記の要件を満たす日系四世の方が対象となります（受入に当たっては年間受入枠が設けられます。）

項目	内容
素行	本国において犯罪歴がないこと
年齢	18歳以上30歳以下
健康	健康であること 医療保険に加入していること
家族	家族を帯同しないこと
生計維持	預貯金や入国後の就労の見込みも含め、入国後の生計維持が担保されていること
帰国旅費	帰国旅費が確保されていること
日本語能力	入国時：基本的な日本語を理解することができる能力を有していること（日本語能力試験N4程度）
	更新時：通算して2年を超えて在留するとき → 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる能力を有していること（日本語能力試験N3程度）

日系四世受入れサポーターとは

- 本制度を利用する日系四世の方に対し、無償でサポートを行っていただく存在です。日系四世の方に対して、日本文化の習得や生活関連情報に関するアドバイスや、入管手続の援助などを行っていただきます。
- 個人の父又は非営利の法人が日系四世受入れサポーターになることができます。
- ※ 本制度では必ず確保していただく必要があります。
- ※ 日系四世受入れサポーターをお探しの方は、下記の法務省ホームページをご覧ください。
- 詳細は、「日系四世の方への手引き」「日系四世受入れサポーターの方への手引き」を、具体的な申請方法などの詳しい情報は、以下の法務省HPをご覧ください。（http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri07_00166.html）

インフルエンザがからまないために、広めないために

インフルエンザの流行を抑えるには、各自がからまないようにすること、広めないように心がけることが大切です。以下の事項に十分留意した生活を願います。

◆かからないようにするには…

- 出かける場合には、なるべく人ごみを避けましょう。
- 帰宅時や食事前には手洗いをしましょう。
- 睡眠を十分に取って、栄養に気を配りましょう。
- 室内を適切な温度や湿度に保ちましょう。

◆広めないようにするには…

- 咳エチケットを守りましょう。
（咳、くしゃみが出る場合には、ティッシュ、ハンカチなどで鼻や口を押さえ、飛沫を飛ばさないように心がける。）
- 咳、くしゃみなど体調がおもわしくない場合には、極力外出は避け、外出をする場合にはマスクをしましょう。

◆ハイリスク者の方へ…

- 高齢者、妊婦、乳幼児、心肺系の慢性疾患・糖尿病・腎疾患等の基礎疾患を有する方（ハイリスク者）は感染すると症状が重くなる可能性がありますので、早めに医療機関を受診してください。

◆インフルエンザワクチンの接種について

- 予防接種は発症する可能性を減らし、もし発症しても重い症状になることを防ぎます。特に高齢者や基礎疾患のある方など、重症化する可能性が高い方には、効果は高いとされています。65歳以上の方などを対象に、市町村が助成制度を設けています。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。



Close up!

ア ス フ ィ ル ギ フ の 活 動 ASFIL GIFUの活動



岐阜県内では様々な団体やグループが活動しています。その一つはASFIL GIFUというグループです。あまり知られていないと思いますが、ASFIL GIFUはフィリピン人のグループで、主な活動として在大阪フィリピン総領事館の出張サービスの手伝いと、岐阜県に住む同じフィリピン人のサポートを行っています。

今年度(平成30年)は5月12日、13日と8月18日、19日の2回、岐阜県にて在大阪フィリピン総領事館が、窓口で行うパスポート申請・更新手続きなどの各種手続きの出張サービスを行い、ASFIL GIFUは総領事館を支援しました。

ASFIL GIFUは在大阪フィリピン総領事館とフィリピンコミュニティをつなぐかけ橋として活動しています。フィリピン出身の地域住民の方々が聞きたい、知りたいと思ったことを、ASFIL GIFUが代わりに総領事館に問い合わせし、総領事館がくれた答えをそのまま伝えます。

フィリピンコミュニティのため、岐阜県国際交流センターと岐阜市国際交流協会のイベントにASFIL GIFUは協力しています。今年度は、岐阜市国際交流協会が12月9日に予定されているイベントに協力する予定です。

JICA岐阜県デスクからのお知らせ

JICA ボランティアが見た世界 ～思い出の一枚の写真～

No.002



こんにちは！今回はJICAボランティアが見た世界と題しまして、派遣国で撮った写真とそれにまつわるエピソードを語って頂きます。第二回目は、小池美也子さんです。

小池美也子さん(岐阜県出身)

派遣期間：2015/6～2017/3 派遣国：ブラジル 職種：小学校教員

2016年、私が派遣されていたブラジルでオリンピックが開催されました。オリンピックの3ヶ月前、首都ブラジリアからブラジル全土を回る聖火リレーが始まりました。スタートからおよそ2ヶ月後、私の住んでいたロンドリーナ市にも聖火がやってきました。さすがブラジル。大音量の音楽をかけ、ダンサーを乗せた電飾のトラックの後に、聖火をもった女性が走り抜けていきました。次の日、私が活動していた学校の先生がランナーをされたということで、聖火を持たせてもらいました。少し重くて、まっすぐ持って笑顔で走るランナーの方はすげえな、と感じました。あれから4年後。日本中を笑顔の聖火ランナーが駆け抜けていく日が楽しみです。



聖火はちょっと重かった！

～ JICA ボランティアや開発教育・国際理解教育、その他国際協力に関して、お気軽にお問合せ下さい～
JICA 岐阜県デスク 岐阜県国際協力推進員 世古英弘 TEL：058-263-8069 E-mail：jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

Information

このコーナーでは、当センターからのお知らせや県内の国際交流・多文化共生団体が開催するイベント・講座などの情報を掲載しています。

他団体からのお知らせ

平成30年度国際交流のつどい(講演会及び交流会)

ホストタウン相手国である、スリランカ出身の講師をお迎えし、同国の文化紹介等を行います。交流会は立食形式です。皆さまのご参加をお待ちしております！

とき 2018年11月17日(土)講演会14:00~15:30 交流会16:00~17:30
ところ 不二羽島文化センター401大会議室(住所:羽島市竹鼻町丸の内6丁目7番地)
定員 100名程度
参加費 講演会:無料(ただし入場整理券が必要)
 交流会:会員1,000円、非会員:大人1,500円、中学生・高校生500円

問合せ先 羽島市国際交流協会事務局(羽島市役所企画部市民協働課)

主催者連絡先
住所: 羽島市竹鼻町55番地 TEL:058-392-1111(内線2312)
(E-mail) kyodo@city.hashima.lg.jp
(HPアドレス) http://www.hashima-hiea.jp/

研修会「災害時の外国人支援を考える」

外国人の立場に立って、災害時に外国人が直面する問題を学ぶ研修会です。

とき 2019年1月20日(日)13:00~16:30
ところ みんなの森 ぎふメディアコスモス
 おどるスタジオ(岐阜市司町40-5)
対象 どなたでも ※語学力は問いません。(ボランティアに興味のある方、自治会関係者、留学生、外国人支援団体関係者など)
定員 20名(応募者多数の場合は抽選)

参加費 無料
申込方法 講座名、住所、氏名、電話番号 E-mailもしくは直接電話
 でお申し込みください。

問合せ先 (公財)岐阜市国際交流協会(担当: 汲田)
 TEL:058-263-1741 E-mail:gk3700cc@ccn.aitai.ne.jp

海外につながる子ども達の支援者向けドラマワークショップ

学校や地域の教室で、ことばだけに頼らず、多言語・多文化の子ども達と一緒に学ぶ活動づくりを体験しましょう！

とき 2019年2月8日(金)17:00~(予定)
対象 海外につながる子ども達の教育に関心がある方、教員、地域のボランティア指導員、地方自治体職員、ボランティア学生など
定員 30名
主催者連絡先 住所:岐阜県瑞穂市穂積1851 朝日大学保健医療学部 松井かおり TEL:058-329-1321
(E-mail) kaori-m@alice.asahi-u.ac.jp (HPアドレス) https://nihonicogifu.wixsite.com, https://www.facebook.com/nico.niho.946

賛助会員へのご協力をお願いします。

幅広い県民の皆様参加による岐阜県の多文化共生社会づくりを積極的に推進するため、当センターの活動をご理解いただき、応援して下さる「賛助会員」を募集しています。

● **会費** 個人会員…1口3,000円/年 団体会員…1口5,000円/年
 ※年度途中で入会の場合、初年度のみ、会費は月割りとなります。
 ※当センターは公益財団法人の認定を受けておりますので、賛助会費は税制上の優遇措置があります。

● **特典**
 センター主催の有料イベント(語学講座、料理教室等)の優先参加や参加費割引
 センター情報誌「世界はひとつ」の定期送付(年3回)
 賛助会員協賛企業、店舗での各種割引など
 ● **入会方法** センターまでご連絡ください。

日本語教材の貸出

当センターでは、外国人の子どもに日本語指導を行う方のスキルアップやその活動を支援するため、にほんご教材や指導本等の貸出を行っています。どなたでもご利用いただけますので、是非ご利用ください。

- 1 **利用登録:** 国際交流センターで手続きを行います。免許証等、現住所がわかるものをご持参ください。
- 2 **本の貸出:** おひとり様1回2冊まで。2週間ご利用いただけます。
- 3 **返却:** 貸出日から2週間以内にご返却ください。ご返却は当センターへご持参ください。

※HPで貸出教材一覧をご覧いただけます。http://www.gic.or.jp/2018/03/post-88.html
 ※著作権法により、本を複製して日本語教室等で配布・利用することはできません。

国旗の貸出

非営利活動団体が国際交流等を目的とした事業に使用する場合に限り、国旗や卓上旗の貸出を無料で行っています。貸出は、原則、貸出・返却時に当センターに来所いただける場合のみとなりますので、ご了承ください。ご希望の方はお気軽にセンターまでお問合せください。

GIC 国旗

広告主を募集しています!

当センターのホームページ(日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語)、情報誌「世界はひとつ」(日本語、英語、中国語、ポルトガル語)に掲載する広告を募集しています。詳しくはセンターまでお問い合わせください。



いちき皮膚科

● **診療時間**
 月・火・木・金・土 : 9:00~12:00
 月・火・金 : 15:30~18:30

● **休診日**
 土曜午後、水曜、日曜、祝日

〒502-0913
 岐阜市東島3-9-13
 ☎ 058-231-1237



発行・編集 公益財団法人岐阜県国際交流センター (略称GIC)

〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2階
 電話 058-214-7700 FAX 058-263-8067
 トリオフォン 058-263-8066(三者通話電話による行政通訳サービス)
 E-mail gic@gic.or.jp URL http://www.gic.or.jp
 開館案内 開館 日~金曜日 9:30~18:00
 休館 土曜日、祝日、年末年始
 対応可能言語 英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語

発行日 平成30年11月1日発行(年3回発行 7月、11月、2月)

